

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	和歌山県
推進地域名 (再委託先)	橋本市

## 1 事業推進の体制

実践中心校	橋本市立城山小学校
協力校	橋本市立紀見東中学校 橋本市立紀見小学校 橋本市立境原小学校
関係機関	橋本市立学校給食センター

## 2 各都道府県教育委員会の取組

### (1) 食育の方針（取組内容）

<p>「義務教育段階で望ましい食習慣を確立させる」ことをメインテーマとし、県内の学校における食育を推進・充実するために、学校における食育の推進の評価の指標を開発するとともに「学校における食育推進の手引」を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・和歌山県食育推進検討会の開催 和歌山県の学校における食育を推進・充実させるために、学識経験者、橋本市教育委員会、県学校栄養士研究会会長、県教育委員会指導主事等を構成メンバーとした「和歌山県食育推進検討会」を開催し、学校における食育推進の評価の指標について検討。 また、推進地域における取組内容や学校における食育推進の手引の内容について検討。</li><li>・学校における食育推進の手引の作成及び配布 学校における食育を推進・充実させるために、県内8地方において食育推進の中核的な役割を担っている栄養教諭等で構成した「学校における食育推進の手引作成会議」を開催し、食に関する指導の全体計画及び年間指導計画例や校種別各学年別指導事例（各教科等領域別・食生活学習教材活用例等）等手引の内容について検討。 また、望ましい食習慣を確立させるため、全小中学校等に手引を配布し、栄養教諭を中核とした食育推進の事例等について普及・啓発。</li></ul>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### (2) 実践推進地域への指導・支援内容等

<p>食生活及び生活習慣に関するアンケートの実施項目や朝食欠食率0%及び朝食内容の充実に向けての実践的な取組の進め方等について指導助言等を行った。</p>
-------------------------------------------------------------------------------

### 3 具体的な取組等について

テーマ	朝食欠食率を0%にするとともに朝食内容の充実を図る。
評価指標	朝食欠食率0% 朝食内容の充実
効果	<p>比較的落ち着いた家庭が多く、取組前と後とで、朝食の欠食率については大きな変化はなかったが、朝食のおかずの種類を問う項目において「おかずが特にない」という回答が減少した。また、菓子パンだけ、バナナだけという食べ方をする児童生徒が減った。</p> <p>市内の全小中学生に『自分で作るかんたん朝ごはん』レシピ集を配布したが、調理実習を行った学校において「家庭で作ってみた」という声が多かったことから、配布するだけでは「朝ごはんを作って食べる」ことが広まりにくい。今後、レシピ集を使って各学校で調理実習をしたり、保護者対象の食育講座を開催するなどして啓発していく必要がある。</p>

#### (取組状況)

6月末に実践中心校及び協力校の児童生徒及び保護者対象に朝食摂取状況や排便状況、朝食についての保護者の意識等食生活及び生活習慣に関するアンケートを実施、集計し、課題把握を行った。併せて、「おすすめのかんたん朝ごはんレシピ」の募集を行い、20数品を選出して『自分で作るかんたん朝ごはん』レシピ集を作成し、市内全小中学校に配布した。さらに、このレシピを活用して紀見東中学校区（1中・4小学校）で調理実習を実施した。

また、小学校を中心に特別活動、体育（保健領域）、家庭科及び社会科等において、栄養教諭が担当教員や養護教諭とTTで食育の授業を行った。栄養教諭が給食センター勤務であるため、市内全小中学校で授業を実施しにくい状況から、授業をする際に市内の他校教職員の参観や、学習指導案や教具の貸出等により、食育の授業を広めて行けるよう工夫した。

さらに、保護者懇談会や講演会、就学児検診等の機会を利用して、栄養教諭から保護者や地域の住民に食育の大事さを広報した。



朝ごはんの主食												
種類	ごはん		パン		めん		シリアル		お菓子		その他	
学校名	6月	1月	6月	1月	6月	1月	6月	1月	6月	1月	6月	1月
紀見東中	114	118	173	172	1	1	11	4	0	1	0	7
城山小	136	145	182	175	2	6	16	5	1	1	1	5
紀見小	154	168	209	209	5	3	18	13	2	2	3	8
境原小	25	28	27	31	0	0	2	3	0	0	4	0
朝ごはんのおかずの種類												
種類	特にない		1種類		2種類		3種類					
学校名	6月	1月	6月	1月	6月	1月	6月	1月				
紀見東中	49	44	72	60	113	129	60	60				
城山小	26	37	82	76	109	124	114	90				
紀見小	75	59	90	105	130	128	90	90				
境原小	7	9	11	15	15	15	25	18				
食育レシピ集の使用												
	2回	1回	紀見東中学校生徒数		311名							
	2回	1回	城山小学校児童数		337名							
	2回	1回	紀見小学校児童数		390名							
	2回	1回	境原小学校児童数		57名		(H26. 1現在)					
紀見東中	11	23										
城山小	33	47										
紀見小	63	62										
境原小	8	7										

- ・主食がシリアルなどからごはん中心となった児童生徒が増えた。
- ・おかずの数が「特にない」が紀見東中学校・紀見小学校の2校は減り、全体的におかずの種類が増えた。
- ・「レシピ集を使って調理をした」と答えた児童生徒は2回以上が115名、1回の児童生徒が139名であった。

#### 4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

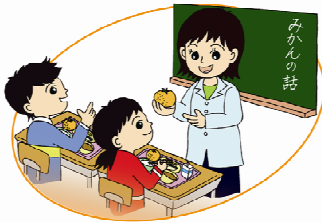
##### < 県の取組 >

- ・和歌山県食育推進検討会を開催し、和歌山県の食に関する課題や問題点について、また学校における食育推進の評価の指標について様々な立場から意見交換することで、共通認識を図ることができた。
- ・学校における食育推進の手引作成会議において、食に関する指導事例について検討することで、栄養教諭の資質向上を図るとともに、栄養教諭の専門性について再認識することができた。
- ・学校における食育推進の手引に文部科学省発行「食生活学習教材」を活用して指導事例をたくさん掲載することで、各学校における食生活学習教材の積極的な活用について促進することができた。

- ・学校における食育推進の手引「紀州っ子のころとからだをつくる食育の手引」を作成・配布することで、学校における食育推進の重要性について啓発することができた。

紀州っ子の  
ころとからだをつくる  
食育の手引

～学校における食育実践事例～



和歌山県教育委員会

①小学校1年 学級活動 「げんきなうち」

活動目的の紹介

赤ちゃんの頃は「いっちゃんが出たかな？」と発酵も育ちかけ、子どもの経験管理をするが、小学生になると、「今日はまんぱんがどどんぱんだった？」と、子どもに馴染んでも少なくない。一方で、毎日食卓にいろいろな食べ物が出ていない場合がある。そこで、子どもの経験や大切さを体験を通して、子どもに食卓に馴染んでもらう。いっちゃんを出すために、どのような生活を送ればよいのか、どのように食卓を整えればよいのかを親子で考える機会とすることで、よりよい生活習慣を養育することができる。

活動の目標

食べたもので体の状態がわかることを知り、野菜を食べることの大切さを理解した上で、自分の食生活を振り返り、好きな食べ物と苦手な食べ物を挙げてみる。

活動の視点

食卓を整えることの大切さに気付く、好きな食べ物と苦手な食べ物を知ることが大切であることを知る、  
心身の健康。

授業の進行

- 動物によって赤ちゃんが通うこれに気付く。  
動物によって赤ちゃんの形、色、大きさが違うことを知る。  
自分は何んな赤ちゃんかを知る。  
○赤ちゃんの絵を描く。いっちゃんを出した赤ちゃんの絵を描かせる。  
何を食べた赤ちゃんかを知るのか、しっかりと観察して発表する。  
自分の赤ちゃんは何んな赤ちゃんかを知る。  
○自分の赤ちゃんの絵を描かせる。  
○野菜を食べているか、好きな野菜はどれか、苦手な野菜はどれかを知る。  
（食べられる手にきっかりと文字を記入）
- お菓子ばかり食べている赤ちゃんの食生活を考える。  
○エプロンシアターを用いて、野菜を食べることの大切さを気付かせる。  
○子どもの意見が分かるように発表させる。  
○野菜を食べるための工夫を子どもから引出す。

- 自分の食生活を振り返り、どのようにして「げんきなうち」を出すかを考える。  
自分の食生活を振り返り、好きな食べ物と苦手な食べ物を挙げてみる。  
○授業の振り返りシートをまとめる。



振り返りの学習

野菜を食べて、（生活科）  
結果の野菜を好きな野菜と苦手な野菜に分けて食べる。（給食の時間）

授業の振り返り

動物の赤ちゃんの絵  
動物の赤ちゃんの絵を描かせる。  
動物の赤ちゃんの絵を描かせる。

学習活動からの一度だけポイント

動物の赤ちゃんの絵を描かせるのは、写真の動物の赤ちゃんの絵に似た絵本等があることで活用して欲しい。  
おなかの中が空っぽになるのは、おなかの中が空っぽになるというイメージを持って欲しい。  
授業で使っているおなかの中が空っぽになるというイメージを持って欲しい。  
おなかの中が空っぽになるというイメージを持って欲しい。  
おなかの中が空っぽになるというイメージを持って欲しい。  
おなかの中が空っぽになるというイメージを持って欲しい。  
おなかの中が空っぽになるというイメージを持って欲しい。



＜推進地域の取組＞

- ・学校においてレシピ集の中から数品の調理実習を行ったことで、「自分で簡単にできる」ことが実感でき、「家に帰って自分で作ってみた。」「朝、家の人と一緒に作っている。」という児童生徒が多く見られた。
- ・栄養教諭による食育授業を、他校にも参観してもらい（指導案・教具の共有）ことで、自校に戻って同じ授業を展開することができた。1人では、なかなか広げる事が難しいが、この方法をとることで効果的に市内の学校で食育を推進することができた。

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

県教育委員会主催研修会において、本事業の取組についての実践発表等を行うことにより、県内に広める。

また、各種研修会で、「紀州っ子のころとからだをつくる食育の手引」を活用して、学校における食育推進の重要性や食に関する指導の進め方等について普及・啓発を行う。

## 6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

### < 県の取組 >

- ・各学校において、学校における食育推進の手引が十分活用されるよう、研修会等において啓発するとともに、手引を活用した食に関する指導実施の有無について、把握していく必要がある。

### < 推進地域の取組 >

- ・本年度の取組だけでは、朝食欠食率0%はもとより、割合を減少させることもできなかった。食の課題を解決させるためには、単発的な取組ではなく、計画的・継続的な取組が重要であるため、今後も引き続き、朝ごはんを中心とした生活習慣の確立等について、家庭への啓発と子どもたちが実生活に生かすことのできる取組を行う必要がある。
- ・本事業において実践的な取組を行った紀見東中学校区4校においては、ある程度食育を広めることができたが、残りの中学校区の児童生徒及び保護者の食に関する意識を高めるためにも、レシピ集を使った調理実習の実施等食育授業の普及の方法を探っていく必要がある。